



くすのき

学校のシンボル
くすの木

令和7年4月30日

さいたま市立土合小学校

「守破離」の「守」

校長 白倉 秀樹

学校の様子も4月の頃から少しずつ変化が見られ、緑豊かな5月がやってきました。子どもたちからの元気なあいさつが響き渡り、新しい生活に慣れてきたことが伺えます。今年度のように1年生の会は、昨年度に引き続き体育館で全員一堂に会して行われました。今年度5年生6年生となった代表委員のみなさんを中心に、1年生を温かく迎え入れる素晴らしい会でした。1年生の代表の言葉も立派で、とても頼もしく感じられました。

4月中校内を見回っているときに感じましたが、すべての学年において新しい環境の中でいろいろと作り上げている様子が伺えました。クラスの信頼関係や約束事、年間のスケジュールなど多種多様なものを決めつつ、新しい環境に慣れようと努力している姿も見られました。すべての子どもたちに通ずることですが、4月は緊張感に包まれている時間がとても長いものです。学校に来ている子どもたちは、どの子も輝く笑顔でいるように見えますが、実際は大人の想像以上に疲れているかもしれません。ぜひ御家庭でも子どもたちの日々の様子を聞いていただき、新たな環境を作る子どもたちに労いの言葉をかけてあげてください。

先日、1年生の教室を廊下から見ているときに、担任の先生方がそれぞれのクラスにおいて給食指導をしている光景を見かけました。給食着を実際に来てみたり、給食配膳の動きを試みたりと、時間をかけてゆっくりと説明されていました。それを子どもたちは真剣に聞いて、実際に動いて理解しようと努力していました。その光景を見たとき、あっと思わせる言葉が私の頭の中に浮かびました。

皆さんは「守破離」という言葉をご存知ですか。他校の学校だよりや教育論文等で見かける言葉です。「守」は師や流派の教え、型、技を忠実に学び、確実に身に付ける段階、「破」は他の師や流派の教えについても考え、良いものを取り入れ、自分の学んだ教えや技を発展させる段階、「離」は一度師の教えや流派から離れ、新しいものを生み出す段階と解釈される、茶道や武道の修行のプロセスを表したものです。先ほどの1年生の教室で展開されていた指導はまさに「守」の段階と言えるものだと実感させられた瞬間でした。

現行の学習指導要領において、子どもたち自身で学びを作り、それを教師が支える教育活動を展開する、いわゆる「令和の日本型学校教育」が展開されています。それは一斉指導を完全否定するものではなく、また、一斉指導か自主的な学びかの二択でもなく、どちらも使いこなし、新たな学びの展開を探るものであります。当然に今回御紹介した給食指導の場面は必要なものであり、学びを深化させるために必要なものであります。

小学校の教育段階は「守破離」における「守」の段階だと感じます。今回の給食指導は、本校の教職員が子どもたちに学習を委ねる部分と指導する部分の調整を日夜研鑽し、尽力していることを紹介したいと感じさせる場面でもありましたので御紹介させていただきました。